

辞書を引かせて、 英語を好きにさせるための3冊

林 信孝



■英語離れは辞書離れから

長年、中高で英語を教えて来て感じるのは最近の中高生が英語に憧れを持っていないという事実です。昔は、英語は世界へ羽ばたくためのパスポートであり、洋楽の歌詞であり、洋画のセリフでした。しかし、下手に留学なんかすると日本の就活に不利になるし、ネットで翻訳すれば意味はわかるし、チマチマ英語を勉強するのは、ダサさの極みのようです。

そもそも、辞書を引くというのが彼らにとっては「ビミョー」です。スマホが学校で禁止されているから、仕方なく取り出して、いちいちキーを押して…。それ自体がガリ勉イメージ。

これは笑い事では済まされません。英語を通じて世界の情勢や文化に興味を持ってもらい、21世紀のグローバル社会を生きる能力をつけてもらいたいと願うなら、英語離れを阻止し、辞書離れを喰い止めなければならないからです。英語の勉強自体が楽しくなければダメなのです。

そのためには、どうしたらいいのでしょうか？私は教養だと思っています。わかったつものの事柄を英語で読むと別の見方ができる、英語で物事を考えると自分とは違った考え方に触れられる、英語で書こうとすると日本語とは異なった展開が要求され、論理を研ぎ澄ませる必要がある。こういった経験をすることで、英語が好きになるのです。

■辞書を使わせて英語を好きにする

その第一歩が、辞書です。強いられてする英語

学習では、辞書は奴隷的労苦の象徴、重い鉄の足枷ですが、教養のためとなると、知識の宝庫、夢の玉手箱になります。しかし、それを開くには、隠された鍵が必要です。

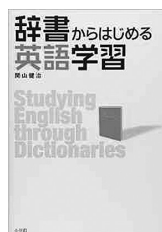
かつて英語を身に付けたくて躍起になっていた、英語教師の皆さんにとって、辞書はあくまでも英語を学ぶための道具であって、効率的に使い倒すことは得意でも、そこからにじみ出る味の楽しみ方には案外疎かったりするのではないのでしょうか？

辞書の鍵となりそうな3冊を紹介します。

◇関山健治著『辞書からはじめる英語学習』
(2007, 小学館)

書名のとおおり、英語を学ぶ上での辞書の役割を初歩から例題つきでおさらいできる本です。10級から1級までの検定形式です。辞書に慣れるのは楽器演奏のようだとしたり、冊子辞書と電子辞書の違いを鈍行と新幹線になぞらえたり、例えが上手く、わかりやすいのです。

英語教師が読んでも、意外に抜けている知識（例えばレジスター表記の《略式》と《話》の区別など）がちりばめられていて、勉強になります。辞書指導をする材料を仕込むのに便利です。また、辞書について質問してくる生徒がいても、昔から知っていたような顔をして答えられます。面倒な場合はこの本を読むように勧めればOKです。



語源欄の活用法を伝授しているのは珍しいかもしれません。これを機会に英語史やラテン語などからの影響を復習するのもいいかもしれません。*1

◇磐崎弘貞著『英語辞書をフル活用する7つの鉄則』(2011, 大修館書店)

関山(2007)も辞書編纂に従事している著者ならではの逸話も随所に見られますが、こちらは永く辞書編纂に携わってきた著者が、辞書の背後にある世界を開示しつつ、それを踏まえて辞書を使いこなす方法を紹介してくれています。特に OALD と COBUILD の裏話は圧巻です。*2

Asahi Weekly の連載記事が基になっているので、各節が読み切り形式で快調に読み進められますが、次第に語彙論、辞書編纂の基礎概念が身につく、辞書指導の理論武装に打ってつけです。

中高生が読むとなると、少々難しいかもしれませんが。関山(2007)の教師用マニュアルにしておいた方がいいでしょう。オンライン英英辞典を使った「定義テンプレート」など、アクティヴ・ラーニングの素材になるようなアイディアが豊富に提供されています。

リスニングや発音にも辞書を活用すべきなど、音声面のことにも紙幅を割いています。

◇樋口昌幸著『英語辞書活用ガイド』

(2012, 開拓社)

活用ガイドと銘打ってありますが、完璧に生徒に活用させるための教師のためのガイドと言えるでしょう。はしがきにあるように、「これまでの英語研究の成果が満載されている」辞書の情報を読み取らせようというのですから。はしがきの導入の問題からして相当な難問で、解説



で/a/と/a/の「区別を知らない英語教師もたくさんいます」とこき下ろしてくれます。

といって、取りつく島もないような本かというところでもなくて、コラムの「補習授業」(語法と文法の違い、など)や「コーヒープレーク」(Who made that poor joke? そんなだじゃれを言ったのはだれじゃ、^{あげつら}など)は勿論、本文も実際の辞書のダメなところを論いながら、深くて深い知識を楽しく理解させてくれます。

辞書の記載例を転載している個所が多いので、現物を広げる手間が省けます。特に、巻末のさまざまな辞書の情報比較一覧表は、辞書選びに使うとかえって迷うかもしれないほど詳細で充実しています。

それぞれの辞書の凡例や付表を見るようにとあちこちで強調していることに共感を覚えました。凡例を省いているような簡素な電子辞書を買うのは「大金をドブに捨てるのと同じ」とまで言っています。

凡例を本体などに収録した本格的な電子辞書もあるので、今後は、購入時にはその辺が要チェックになるでしょう。紙の辞書と見比べて見てもいいかもしれません。

*

英語教員自身が、英語研究の成果の集積である辞書にもっと強くなり、中高生に辞書をどしどし使わせ、辞書好き、英語好きにしていくための強力な助っ人となる3冊です。教員免許更新講習の予習や試験の予行にも最適だと思います。

(はやし のぶたか・フェリス女学院中学・高等学校教諭)

- * 1 ラテン語の影響については、拙著『英単語に強くなる』(1995, 岩波ジュニア新書)を参考にしてください。
- * 2 著者の磐崎先生はバーミンガム大学でしばらく同じ研究室で勉強した仲です。裏話の数々に懐かしさがこみ上がりました。